2022 年度　教員の自己点検・自己評価計画書

所属学部　学科	職位	氏　　名
経営学部 地域ビジネス学科	教授	宮城 エステバン
最終学歴	学　位	専門分野
筑波大学大学院ビジネス科学研究科国際経営プロフェッショナル専攻修了	国際経営修士（専門職）	国際経営

Ⅰ　教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

（理念）

企業が求められる IT スキルを教えることにより、適切な励ましと指導のもと、学生は最大限の学術的可能性を発揮することができます

（目標）

学生に、理論とビジネスのニーズのバランスの取れた教育を提供するとともに、一生涯にわたる学びのための人格形成を促すこと

（方針）

ラーニングアナリティクス(学習分析)に基づく教育を実施し、学習、教育、教育管理を改善します。

（計画（方法））

- IT スキルの強化
- 実際の事例を紹介
- 生涯学習の姿勢を奨励する
- ハンズオン・ラーニング

○担当科目（前期・後期）

（前期）

経営分析、デジタルリテラシー、アメリカ経済論、現代企業論、卒業研究準備、卒業研究指導Ⅱ

（後期）

データサイエンス入門、ビジネス統計学、インターネット社会論、組織コミュニケーション、卒業研究指導Ⅰ、卒業研究指導Ⅲ

○教育方法の実践

対面とリモートラーニング（オンラインとオンデマンド授業）。

○作成した教科書・教材

プレゼン資料 ． 学生実習用の IT サーバー

○自己評価

文系大学で IT エンジニアを育成しようとする中で、様々な課題があります。たとえば、インフラストラクチャーや IT のバックグラウンドの不足です。私は、学生が大学の 2 年期~4 年期により難しい科目に取り組むことができるよう、基本的な IT コースを改善すべきだと考えています。それにもかかわらず、いくつかの学生は IT 業界での職を得ることができました。大学教育の目的は就職だけではありませんが、企業が求める能力を持たない学生は生きていけないという厳しい現実があることを理解すべきです。それを踏まえて、この短期間で必要なスキルを身につけさせることに全力を尽くしました。しかし、トップレベルの技術者を育てたり、生涯学習者に育てるには時間が足りなかったと反省しています。

Ⅱ　研究活動

○研究課題

最も必要としている人々の教育を向上させるために IT ツールの利用を研究致します。

○目標・計画

（目標）

ラーニングアナリティクス(学習分析)に基づく教育を実施し、学習、教育、教育管理を改善する。

（計画）
１．学生と学習データの整理
２．LMS と分析システムの連携
３．分析・AI モデルのテスト

○2015 年 4 月から 2023 年 3 月の研究業績（特許等を含む）
（著書）
（学術論文）
（学会発表）
（特許）
（その他）

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）
公益財団法人大川情報通信基金
研究助成
【研究テーマ】
不登校の在日移民児童の社会への早期統合を目的とした学習管理システム活用の可能性に関する研究
2022 年 11 月

○所属学会
1. Society for Learning Analytics Research (SoLAR) https://www.solaresearch.org/
2. エビデンス駆動型教育研究協議会 https://www.ederc.jp/
3.ISC2(サイバーセキュリティ国際的非営利団体)会員
4.ISACA(情報通信技術専門家の国際的団体）東京支部会員

○自己評価
少ないデータと時代遅れの LMS ツールでは、意味のある研究をすることは難しいです。いくつかのケースを試しましたが、あまりいい結果は得られませんでした。今後は海外の大学とも連携して研究を進めていく予定です。

Ⅲ　大学運営
○目標・計画
（目標）
キャリア支援センター運営委員会および東邦 STEP 運営委員会の委員会の一員としての立場と役割を認識し責任のある行動をとる
（計画）
委員会の一員として尽くしました。

○学内委員等
キャリア支援センター運営委員会

○自己評価
学生のキャリアプランをどうするか、就職をどうするかというビジョンに齟齬があるのだと思います。

Ⅳ　社会貢献
○目標・計画
（目標）
ラーニングアナリティクス(学習分析)を利用して、移民の子どもたちの教育レベルをいかに向上させるか。

（計画）
大川財団の助成を受け、現在は研究を進め、LMS ツールのテストを行っています。

〇学会活動等
私は現在、FCCJ(日本外国特派員協会)の IT 委員長を務めています。FCCJ のミッションは報道の自由を守ることです。IT 委員長と準会員連絡委員会 (AMLC)して、FCCJ の DX 化を統括しています。

〇地域連携・社会貢献等
地元の国際コミュニティへの参加を増やすために、在日米国商工会議所(ACCJ)中部支部に参加しています。 現在は特別プログラム委員会に所属しています。

〇自己評価
私はベストを尽くしたと思っていますが、もっと進歩し、大きな貢献をするためには、もっと資金とお手伝いが必要です。

Ⅴ　その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

Ⅵ　総括

以　上